

平成31年度使用  
中学校道徳科用教科用図書選定のための資料

岩手県教育委員会

調査票 1 種目名 (中学校道徳科)

観点	項目・発行者名(番号)	東書(2)	学図(11)	教出(17)	光村(38)	日文(116)
1 内容	1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮や工夫について	話し合いが充実するよう具体的な流れを示し、自己を見つめながら道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。	一年間を通して生徒が自己の学びの過程を確かめ蓄積しながら、道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。	教材の導入に道徳的価値に迫るための視点を示すことにより、道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。	連続して関連する内容項目の教材の学びを通して、様々な問題場面での道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。	教材の終わりに学んだことを自分事として考える場面を設けて、道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。
	2 思考力・判断力・表現力等を育むための配慮や工夫について	教材冒頭に示されたテーマにより見通しを持つことで自分の考えを深め、道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。	自分自身のものの見方・考え方を深める「心の扉」を位置付け、道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。	教材末尾の「学びの道しるべ」で登場人物への自我関与を促し、道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。	教材末の「学びのテーマ」で見方を変えて考える問いを提示し、道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。	「道徳ノート」内の友達の意見の記入欄を通して、自分の考えを深めながら道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。
	3 主体的に学習に取り組む態度を養うための配慮や工夫について	自分が考えたことや感じたことを随時書き留められる欄を位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。	これまでの自分を振り返り、自己を見つめる場面を位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。	自分の生活を振り返り、考えを深めるための問いかけを教材に位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。	考える視点や具体的な課題を確認する場面を位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。	自分の生活を振り返る「自分にプラスワン」を位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。
	4 教科目標、学年目標、言語活動の充実等からみた内容について	役割演技を含んだアクションコーナーを中心とした言語活動を通して、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。	教材毎にある意見交換マークを用いて考えを比較する言語活動を通して、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。	役割演技や書き込み等で、自他の行動を振り返る言語活動により、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。	日常生活を振り返ることができるコラムを用いた言語活動を通して、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。	自分の意見を記述すること重点を置いた言語活動を通して、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。
	5 他の教科等との関連及び他学年の内容との関連について	教材の冒頭にあるマークに各教科との関連を明記し、他教科等への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。	「大切な10のポイントのマーク」で現代的な課題との関連を示し、他教科等への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。	現代的な諸課題について各学年で複数教材を取り上げ、他学年への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。	教材に「学びのテーマ」が位置付けられており、他教科等への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。	現代的な諸課題について考えるコラムが設定されており、他教科への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。
2 組織配列分量	1 全体構成や単元・題材の系統的な配列・関連について	生命尊重を重点とした複数の教材からなるユニットを構成し、繰り返し考えを深める学習ができるよう配列されている。	学期毎に、教材を4つの視点に基づきバランスよく配置し、内容項目について偏りなく学習できるよう配列されている。	発達段階に応じた重点テーマを設定し、テーマ毎に教材を示すことにより、見通しを持って学習ができるよう配列されている。	学校生活や生徒の発達段階を踏まえ、四つの「シーズン」を示し、その時期に必要な学びができるよう配列されている。	学年の発達段階を踏まえ、実際の学校生活に対応しながら、学校行事等と関連した学習ができるよう配列されている。

調査票 1 種目名 (中学校道徳科)

観点	項目・発行者名(番号)	東書(2)	学図(11)	教出(17)	光村(38)	日文(116)	
2 組織 配列 分量	2	季節、社会的行事等、地域の実情との関連付けについて	郷土や我が国の伝統文化について考える教材を取り上げ、地域に対する興味・関心を高めるよう工夫されている。	郷土の偉人や日本の伝統文化に関する教材を取り上げ、郷土の発展に努める意識を高めるよう工夫されている。	各都道府県にゆかりのある人物とその言葉を取り扱い、自己の生き方について考えを広げられるよう工夫されている。	様々な地域や伝統文化に関する教材を取り上げ、生徒が自ら地域のよさを探究できるよう工夫されている。	様々な地域における伝統文化に関する教材を扱い、地域への関心を高めながら学習できるよう工夫されている。
	3	内容と分量のバランスについて	全学年33教材に加えて、配当時間外として5教材を取り上げ、学校が郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。	全学年35教材で、重点項目に関わり2教材配置し、学校が郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。	全学年30教材に加えて、補充教材を5教材配置し、学校が郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。	全学年34教材に加えて、補助教材を2教材配置し、学校が郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。	全学年35教材で、重点項目は複数教材をユニットにし、学校が郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。
3 使用上の 配慮や 工夫	1	分かり易さに配慮した語句や文章による表現について	登場人物の考えや意見を小見出しで表現するなど、読み易くなるよう配慮されている。	学習する道徳的価値について補足した解説があり、読み易くなるよう配慮されている。	全ての教材で行番号の示し方を工夫することにより、読み易くなるよう配慮されている。	生徒が馴染みのある昔話や親しみ易い文章を採用し、読み易くなるよう配慮されている。	会話文を多用して、心情や場面状況の把握の一助となる等、読み易くなるよう配慮されている。
	2	分かり易さに配慮した文字、記号、単位、挿絵、図版、写真等の表記について	見開きページを生かしたダイナミックで美しい写真など、表記の工夫がされている。	写真や挿絵、見易い大きさの文字を多く取り入れるなど、表記の工夫がされている。	発達段階に応じて文字の大きさを変えて記述するなど、表記の工夫がされている。	常用漢字へのふりがなや、淡い色を取り入れた挿絵の位置付けなど、表記の工夫がされている。	登場人物や著者を資料名の下で紹介し、内容理解の手助けとなる表記の工夫がされている。
	3	目次、索引、注、凡例、譜表、出典等の使い易さへの配慮について	内容項目別目次により、見通しを持って学習できるようにする等、使い易くなるよう配慮されている。	全ての教材で、ページ数の横に教材名を明記する等、使い易くなるよう配慮されている。	目次には、四つの視点ごとに色分けをして見やすくし、使い易くなるよう配慮されている。	教材と内容項目との関係を冒頭に明示して可視化し、使い易くなるよう配慮されている。	教材の特徴を表すマークを目次に示し、学習活動を充実させ使い易くなるよう配慮されている。
総合 所見		「話し合いの手引き」を活用し、自分の考えを基に、問題場面における充実した話し合いを通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、「心情円」等で個々の心情の可視化を促し、よりよく生きることについて自分の考えが深まるよう配慮されている。	「心の扉」のページで、道徳的価値についての理解をより深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、重要な現代的課題などを「大切な10のポイントのマーク」で示し、生徒が課題意識を持ち、深く考えることができるよう配慮されている。	教材の導入と最後に位置付いている道徳的価値についての発問を中心に、考えを深める活動を通して道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、各学年での重点テーマにそった教材を通して、他者とよりよく生きる大切さを学ぶことができるよう配慮されている。	各教材に「学びのテーマ」を示し、考える視点を明確にしながら、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、四つの「シーズン」に基づいた教材のユニット化を構成し、よりよい生き方について自ら考え共に学び合うことができるよう配慮されている。	「道徳ノート」の活用により、多様な考え方に触れ、自分自身の考えを深める活動を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、道徳的価値に関わり自分の生活を振り返る「自分にプラスワン」を通して、主体的に学びを深めることができるよう配慮されている。	

調査票1 種目名 (中学校道徳科)

観点	項目・発行者名(番号)	学研(224)	廣あかつき(232)	日科(233)		
1 内容	1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮や工夫について	教材に加えて関連する内容を用いて視野を広げ、多面的・多角的に道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。	道徳的価値についての自覚を図り、自己を見つめる学習を通して、道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。	三年間を通して内容項目のつながりがある教材を学習し、系統的に道徳的価値の理解が深まるよう配慮されている。		
	2 思考力・判断力・表現力等を育むための配慮や工夫について	主体的に問題意識を引き出すよう、あえて教材冒頭に主題を明示せず、道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。	各教材の「考える・話し合う」の中で、学習の手がかりを示して、道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。	多様な価値観について自分の考えを深める教材も取り入れて、道徳的な判断力の育成ができるよう工夫されている。		
	3 主体的に学習に取り組む態度を養うための配慮や工夫について	自分の考えを基に話し合い、自分の考えを深める活動を位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。	自分自身について振り返る活動を全ての教材に位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。	自分の考えを広げたり深めたりする話し合いを位置付け、主体的に学習することができるよう配慮されている。		
	4 教科目標、学年目標、言語活動の充実等からみた内容について	複数の異なる意見と自己の意見を交流する言語活動を通して、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。	自己を見つめ、書くことに重点を置いた言語活動を通して、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。	各教材に示している問いを基に十分に考えを交流する言語活動を通して、ねらいに迫ることができるよう配慮されている。		
	5 他の教科等との関連及び他学年の内容との関連について	全内容項目に設けられた、異なる視点を学ぶ関連情報により、他教科等への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。	全学年の巻末に特集ページを設け、他の教育活動との関連や、他教科等への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。	学年間のつながりを重視した教材を扱い、発達段階に応じて、他教科等への広がりを持った学習ができるよう配慮されている。		
2 組織配列分量	1 全体構成や単元・題材の系統的な配列・関連について	設定した複数の学習テーマに基づいた教材の分類により、生徒の実態に応じた系統的な指導ができるよう配列されている。	教科書と「道徳ノート」それぞれにおいて、同じ内容項目で異教材を取り上げ、多様な指導ができるよう配列されている。	学習指導要領で示されている内容項目順で位置付けており、各学校が特色ある指導計画を作り易くなるよう配列されている。		

調査票1 種目名 (中学校道徳科)

観点	項目・発行者名(番号)	学研(224)	廣あかつき(232)	日科(233)			
2 組織 配列 分量	2	季節、社会的行事等、地域の実情との関連付けについて	それぞれの地域の自然や人物、話題を取り扱い、生徒の郷土に対する興味・関心が高まるよう工夫されている。	様々な地域の伝統文化を扱った教材を通して、伝統の継承について興味・関心が高まるよう工夫されている。	各地域に伝わる行事や伝統文化に関する教材を扱い、社会参画についての関心が高まるよう工夫されている。		
	3	内容と分量のバランスについて	全学年35教材で、重点項目に関わり2～3教材配置し、学校が郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。	全学年35教材で、別冊を活用した多様な授業等により、学校が郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。	全学年37～40教材を内容項目順に配置し、学校が各地域における郷土資料を加えて扱う際の内容と分量のバランスについて配慮されている。		
3 使用上の 配慮や 工夫	1	分かり易さに配慮した語句や文章による表現について	学年の発達段階に応じたクローズアップの視点を設け、目的を持って読み易くなるよう配慮されている。	発達段階に合わせた学年テーマを明示し、目的を持って読み易くなるよう配慮されている。	生徒の実態に即した教材が多く、興味・関心を持って読み易くなるよう配慮されている。		
	2	分かり易さに配慮した文字、記号、単位、挿絵、図版、写真等の表記について	写真やグラフを効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める表記の工夫がされている。	配当漢字、未習漢字へのふりがなや、写真や挿絵の適切な分量など、表記の工夫がされている。	ページ全面に写真や挿絵を取り入れ、教材のイメージを膨らませる工夫がされている。		
	3	目次、索引、注、凡例、譜表、出典等の使い易さへの配慮について	内容項目別目次とし、生徒がねらいを意識して学習できる等、使い易くなるよう配慮されている。	各教材の冒頭に、「道徳ノート」の該当するページを示し、使い易くなるよう配慮されている。	教材を色分けした内容項目別の目次やマークの形状等、使い易くなるよう配慮されている。		
	総合 所見	主題名の扱いに配慮し、生徒が自ら課題意識を持つように促し、主体的で対話的な学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、学びが広がる特設ページ等の活用による多様な学習展開を通して、生徒の学ぶ意欲が質的に高まるよう配慮されている。	「考える・話し合う」を各教材に配置して、学習の手がかりを示すことで、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、教科書と「道徳ノート」を効果的に組み合わせながら、共に考え、話し合い、自己を見つめ、考えを深める学習ができるよう配慮されている。	多様な考え方に触れながら自分の考えを広げたり深めたりする話し合いを通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を養うことができるよう工夫されている。また、学習指導要領の内容項目順の教材配列は、各学校の方針に基づき、生徒が自分の生き方を見つめ直す学習ができるよう配慮されている。			